

## ～今月の読み物～

## 「東日本大震災を振り返って」

東京木材問屋協同組合  
事務局長 中原 義雄

平成23年3月11日(金)14時46分、突然の地震が発生し木材会館2階にある組合事務局も大きく揺れました。横揺れは2～3分は続いたと思いますが揺れている間は為すすべなく、机にしがみついている状態でした。日頃から地震の際、収まるまで机の下に入って身の安全を図るなどと訓練していても、人間とっさの時には茫然としてしまうものだと身をもって思い知ったことでした。

天井からチェーンで下がっている蛍光灯が、激しい横揺れのため大きく揺れて危うく天井やダクトに当たりそうになっており、もし当たって蛍光灯が割れれば間違いなく怪我人が出ていたと思われ肝をひやしました。(現在はその教訓もあり天井直付けのLEDです。)

その時は東北で大きな津波が発生したとは思ってもよらず、周辺の被害状況のみが気になっておりました。当会館の7階ホールにて大きな会議が開催されておりました。エレベーターが止まったため、階段にて7階まで上がり状況を確認しましたが、建物は全く影響を受けず木造の梁もビクともしていません。会館が完成して2年目でしたが、さすが日建設計と大成建設の力作であると安心したものです。ホールの照明器具の何個かが外れてチェーンのみで天井からぶら下がって揺れておりました。これは地震対策で器具が外れても落下しない様にあらかじめ対策がされているものとのことで、こういう時に初めて知ることになります。

事務局としては、まず関係者の無事は確認できましたが、最寄りの鉄道路線は全て止まり、会館で会議をされていた地方からの官公庁の方々の一部20人ほどが帰るに帰れず、会館にて宿泊されることになりました。職員がコンビニに走り、かろうじて残っていた菓子類やパン等を宿泊者に分けました。

またどうしてもホテルを取ってほしいという来館者もおられ、近場のホテルに電話をかけまくって何とか何室かを確保でき大変喜んで頂きました。当日は電気は通じていましたが空調はきかず、寒い中で一夜を過ごしました。会議で残された官公庁の方々、事務局の食堂と1階和室に分散して頂き、各部屋で落ち着きを取り戻して安心されたのか賑やかに談笑されていました。職員は各々分散してソファのある理事長室や床暖のある空いたテナント室等にて宿泊しました。当日外出中の職員はそのまま歩いて7時間かけて自宅へ戻った強者もおります。翌日の午後には漸く電車も動き出し来館者の方々や職員も無事に帰宅できました。

私も帰るつもりでしたが、館内点検をしたところ、エレベーターが止まったままであるため作業員が来る夜まで待たされました。一旦停止すると管理会社が安全を確認するまでは動かせず特に異常はないとは思いましたが1日待たされました。都内のビルの殆どのエレベーターが動かせない状況となるこのような大きな地震が都心で発生した場合の復旧方法はまだまだ研究が必要だと思われます。特に高層ビルの場合エレベーターが動かせない致命的だと思います。また、当時はさほど考えておりませんでした。

た防災用の備蓄をこれを機に組合としても常備することとなり、その後に改装した6階小ホールの倉庫に30名程度×4～5日分の備蓄品を納めています。(会議等の来館者の人数はさほど考慮していませんがこれは今後の課題です。)

「天災は忘れた頃にやって来る」といいますが、日頃から対策を怠らず、防災訓練などを定期的を実施し、心と体の準備をしておくことが何よりも大切だと思います。



木材会館の前は「液状化現象」が起こり、マンホールが浮き上がりました。

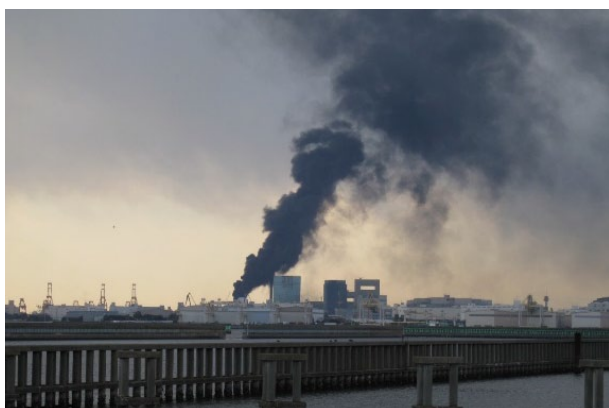


木材会館・地下駐車場スロープ前。  
段差が生じました。

今年、東日本大震災から7年を迎えます。新木場地区でも液状化現象により大量の噴砂が発生し、埋設管の被害、道路の沈下、構造物の沈下・傾斜が生じました。被害は新木場1丁目、2丁目に集中し、3丁目、4丁目南部は被害が少なかったように思われます。地盤構造の違いや対策工の有無が影響しているようです。震災の教訓を風化させないように写真を公開します。



2011年（平成23年）3月11日（金）大震災当日



遠くに火災が発生しました



道路は液状化現象により、噴砂が発生  
東京電力新木場変電所



道路は液状化現象により、噴砂が発生  
新木場2丁目





新木場地区の被害状況



地割れ  
新木場1丁目



液状化現象により泥に埋もれた車  
新木場2丁目駐車場



地盤改良工事  
新木場1丁目



地盤改良工事  
新木場2丁目



写真及びDVD映像提供：東京木場製材協同組合  
(高輪 記)